

「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーン
緊急プレスリリース No.1 2005年9月13日



国連サミットに関する市民社会の動きの情報は 「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーンまで

9月14日から開始される「国連 2005 ワールド・サミット」に向け、日本の「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーンは、市民社会からの情報発信のために、稲場雅紀（いなば・まさき：（特活）アフリカ日本協議会事務局）を派遣しています。本件サミットに関する市民社会の動きを取材されたい方は、稲場までお気軽にご連絡下さい。連絡先は以下の通りです。

稲場 雅紀 携帯：347-200-9451 電子メール：masaki.inaba@gmail.com

集まった世界の首脳： ただ世界の貧困対策へのアプローチの遅れに 市民社会はしびれを切らす

9月14日から17日までニューヨークの国連本部で開催される「国連 2005 ワールド・サミット」は、世界175ヶ国の首脳が集まる史上最大の国際会議です。この会議に向けて国連では、「成果文書」の草案作りが継続して行われています。

「成果文書」は、貧困の解消と途上国の開発の促進、安全保障、人権・民主主義の確立、国連改革の4分野について、今後の世界が進むべき指針を決定していくものです。今回のサミットで特に大きな焦点になるのが、「世界の貧困の解消をどう進めていくか」というテーマであり、世界の市民社会も、このサミットで世界がこの問題にどこまで踏み込めるかに注目しています。

GCAP(Global Call to Action against Poverty)は、世界の貧困の解消に向けた世界最大の市民社会組織で、日本の「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーンをはじめ、世界74ヶ国でキャンペーンを展開しています。GCAPのラシェダ・チョウドリー氏は、「2005年は本来、世界の貧困を解消する上で非常によい機会になるはずですが、世界のリーダーたちは、この機会を利用して、貧困解消のために行われた過去の約束の内容を後退させようとしています。世界の極端な貧困を2015年までに解消していくためには、大胆な取り組みが必要です。このままでは、本来達成できるはずの最小限の目標の達成も危うい状態です。国連サミットに向けた作業も、信じられないほど遅いペースでしか行われていません」と述べています。

国連サミットに向けて、ニューヨークでは市民社会の様々なキャンペーンが展開される予定となっています。例えば、今日（13日）は、世界における基礎教育へのアクセスの拡大を求めて、ニューヨークの主要な場所で、ケニアから来た世界最高齢の小学生キマニ・ンガンガさん（85歳）らがキャンペーンを行います。また、リバーサイド教会（Riverside Church）では、丸一日、サミットに向けた市民社会ワークショップとイベントが行われています。明日以降も、各種イベントが行われる予定ですので、逐次紹介したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。